第　６１　号

平成２０年４月１日発行

寿楽院寺報

〒369-1245 深谷市荒川９８３
高野山真言宗　荒澤山 寿 楽 院
住 職　髙 橋 敬 行
電話　048-584-0302

彼岸の祈り

お彼岸が近づいてまいりますと、誰の胸にもご先祖さまや親のことが思い浮かんできます。そして、お花を供え、お線香を立て、手を合わせますと、太古から自分に至るまでのながい〃いのち〃のつながりの不思議さを感じ、感謝の気持ちと共に、ご先祖さまとひとつにとけあっていくような気持になります。手を合わすこと、祈ることは、人間の一番美しい姿であるといえましょう。そしてこの祈ることは、ご先祖さまに喜んで頂くだけでなく、自分の心を大きく開き、真実の生き方に目覚めることにもつながっていくのです。

お大師さまは、「仏法　はるかに非ず　心中にして即ち近し」と仰せられ、祈ることによって心中の仏性が目覚め、父母から授かったこの身このままで真理を悟り、幸せになる事が出来るとさとされております。

そこで、せっかく祈りを捧げるのですから、仏壇のご本尊さまに向かいご本尊さまの御心にかなうような祈りを捧げていきたいと思います。

真言宗の仏壇では、原則として、根本仏である大日如来さまを中央に、左右に不動明王さまとお大師さまをおまつりすることにしております。そこで、　大日如来さまを拝むときには、太古の昔より途切れることなく私に至るまでの〃いのち〃の営み、今を生かされている、感謝の祈り。　お不動さまを拝むときには、自分がこれまでつくってきた煩悩や罪過をお不動さまの智慧の火炎で焼き払って頂き、自分の心を清浄にして頂く、懺悔の祈り。　お大師さまを拝むときには、私の心の悩みや苦しみを聞いて、頂き、これからもお大師さまと同行二人で幸せな暮らしをさせて頂く、希望の祈り。

私たちのこうした心からの祈りは、ご先祖さまをも誘いこみ、知らず知らずの内にご本尊さまの御心ととけあっていき、一つになっていきます。そして、私たちの罪過の垢を流しつつ、私たちを一段とご本尊さまのお近くに導き、しあわせと喜びを招きよせて下さるのです。

お彼岸、それはご先祖さまを思いおこし、感謝を捧げると共に、自分の中の新しい出発をお誓いする時でもあるのです。

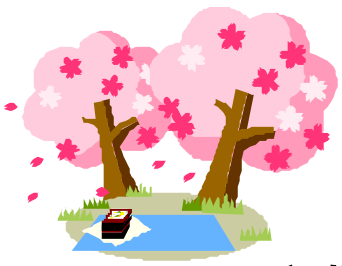
花祭り

４月８日は花祭りです。甘茶を用意してありますので、皆様お誘い合わせお参り下さい。

四月十七日は聖天様の縁日です　お参りすれば普段の日より功徳があると言われます。

仏教が生んだ日本語

「我慢」
現代では、堪え忍ぶとか辛抱する意味に使われる。しかし、元は仏教語で、「我」は自分に執着することを言い、「慢」は慢心を表す。要するに、自分の力を過信しうぬぼれることを言う。



空海の言葉　シリーズ

酷睡（こくすい）は覚者（かくしゃ）を嘲（あざけ）る

●●●寝ぼけた者は目覚めている者をあざ笑う

この「酷睡は：：」ということばは弘法さんの、「哀れなるかな、哀れなるかな長眠（じょうみん）の子：：」という文章のあとに続くことばです。

寝ぼけた眼（まなこ）をした人が、「世の中で寝るほど楽はなかりけり。浮世のばかは起きて働く」などとうそぶき、健全な人をあざ笑っている姿を見て、弘法さんが、「お前は、かわいそうな、あわれなやつだなあ！　お前は自分が眠り過ぎていることに気がつかないのか！」と嘆かれているのです。